

海運の重要性を学校教育の場で  
～北九州市にて出前講話・体験乗船会などを開催～

日本船主協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を学校教育において取り上げていただくよう、教育関係者に対し商船をはじめとする海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

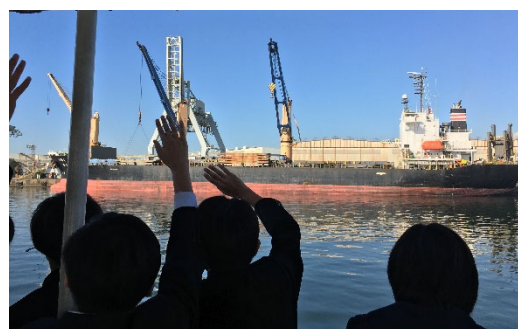
今般、九州海事広報協会および大島商船高等専門学校などの協力を得て、12月10日（金）に北九州市内の中学1年生約50名を対象に「海の教室」として海運・船員に関する講話や体験乗船会などを開催しましたのでその様子をお知らせします。

初めに、当協会より、学習マンガ「船ってサイコー」を用いて、貿易量の99%以上は船が担っていること、運ぶ貨物によって船型を変える工夫をしていること、異なること、船は環境にやさしい輸送モードであることなどを説明。



大島商船高等専門学校より、船員になるための道のりや航海中に使う道具について、海図を用いるなどして説明。

講話後の洞海湾内の体験乗船では、生徒は荷役中の外航船や航行する内航船を見ることができ、普段、陸から見る船を間近で感じ、その大きさに驚いた様子でした。



体験乗船後は、日本サバイバルトレーニングセンターにて、救命艇を見学するなど、海で働く人の安全への意識や対策を学ぶとともに、隣接するニッセイパイオニア館で貨物船以外の船も活躍していることを学びました。

最後に、北九州市エコタウンセンターおよび風力発電設備を見学し、再生エネルギーへの転換など環境について学ぶとともに、風力発電機の羽は外国から船で運ばれてきていることを学びました。



当協会では、今後もわが国の暮らしと産業を支える海事産業を広く知っていただくための活動を展開してまいります。

以上